

あなたのそばで
夢みる数字新聞

特集 「日本の技術」

東日本震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申しあげます。今回の特集は、日本の経済を支え、日本人の誇りでもある「技術力」。世界情勢が変化し、大震災を経験した今、ものづくり大国ニッポンは新しいステージに入ったと言えます。これからどこへ向かっていくのでしょうか？ものづくりの最前線から未来をのぞいてみましょう。

インタビュー

建築家
亀井忠夫さん

日本の技術を象徴する建築として、まさに今、注目を集めている東京スカイツリー®！100年に一度といわれるこのビッグプロジェクトのこと、教えていただきました！

今

もっと世界に届けたい！
ニッポン・ブランド

回のポスターに登場した港は、日本を代表する貿易港である横浜港の大黒心頭で、船にたくさん積んでいるところです。そして、ポスターの数字は「1」。国内で、自動車に携わる仕事をしている人は、働く人口全体の約1割もいるそうです。そんな日本の旗艦産業である自動車においては、近年、電気・ハイブリット自動車などの技術で世界を牽引しています。そのほかにも、リチウムイオン電池やロボットなどの最先端技術から、ネジやボルトなどの部品まで、ニッポン・ブランドと呼ばれるさまざまな技術が世界中で認められ、日本は「ものづくり大国」といわれてきました。これは、現場の職人さんから研究開発の人まで、さまざまな人たちが培ってきた努力の結晶です。このたびの震災でも、耐震技術など、世界メデアから「技術力の高さ」に賞賛を受けました。わたしたちの誇りである、この日本の技術力を、これからも応援していきたいですね。



完成間近。ここに来るまで、大変な苦労があったのでは…

スタートから試行錯誤でした。たくさんの方が関わりますから、違う意見が出るし、ぶつかりあひも起きる。そんな時は、それぞれの言いいたいことを全部言い、その中にある良い部分と、無理があるなどという部分を調整する。それだけでは面白くないので、その中から新たに面白いアイデアを引き出すんです。建築はチームで創るものですから、みんなで考える。ひとりて困っていても、解決の道は見つからないんですね。

スカイツリーには、どんな思いを込められていますか？
機械も使いますが、最後は人。建築は人の手が造ります。日本は、職人さんのレベルが高い。みんな「自分の仕事だ」というプライドを持っているので、現場に行くとき生き生きと働いているんですね。かなり整頓されているし、事故もまったくない。それが、建物のクオリティにつながっています。真面目こそ、日本の力。最新の技術を使いながら、日本な

らではのデザインと技術力によって生まれた「日本のタワー」として世界に発信したいですね。そして50年後、100年後、スカイツリーがどんな評価をされているか、とても興味があります。

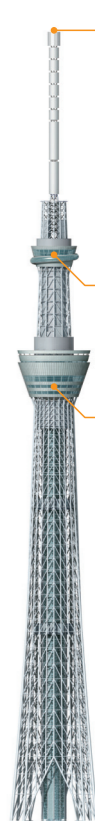
日本のものづくり。
今後の可能性について教えてください。

せっかくの日本の技術をPRする力は、少し弱いかもしれませんね。また、評価ももっとされるべきだと考えています。ものづくりをする側が注目されれば、もっと多くの子どもたちが興味を持ってくれるんじゃないか。そして、全体で見た場合、日本の技術はかなり成熟していますから、これから「量」ではなく「質」へチャレンジしていくことも重要です。今度は海外に教えてあげるといいう義務も、あると思います。

最上部 634m

第2展望台 450m

第1展望台 350m



子どもたちへのメッセージをお願いします。

日本の中にいけば、用は済んでしまふと思っている人が多い。だけど、これから日本の中だけでは、やっていけないと思うんです。今はとにかく動きが早いし、ネットも発達している。そんな中で、海外で実物に触れたり、肌で感じたり、自分と考える。違う人と交流するというのを積極的にやるのが、非常に大事になってくると思います。そして、感性を育ててほしい。自分の環境を当たり前と思うのではなく、「こんなところに電信柱があつていいのかな」と感じる感性。僕ら創る側が、感性に触れるものを作つて、お見せしていく、ということも必要ですね。



亀井忠夫さん 1955年生まれ。日建設計執行役員、設計部門代表。「クイーンズスクエア横浜」「さいたまスーパーアリーナ」など、数々の大規模プロジェクトを手がける。設計統括を担当した「東京スカイツリー®」は、2012年5月22日にオープン予定。

画像提供：東武鉄道株式会社、東武タワー・スカイツリー株式会社

おしえて! 夢みる値段

このコーナーでは、特集にまつわる「夢みる値段」を、ちょっと詳しくご紹介します！

[4,000円]

今

回の店頭ポスターで

とりあげているのは、川崎市観光協会主催の「スタディ・ツーリズム」の小学生の参加費です(※)。たとえば、この夏休み



※2011年8月に実施されたもので、大人の参加費は4,500円。

に開催されたツアーでは、最先端の技術を日々研究している慶應義塾大学新川崎(K2)タウンキャンパスで、世界最速の電気自動車「エリカ」などを見学。「エリカ」は日本が世界に誇る技術のひとつ「リチウムイオン電池」を動力に、8つのタイヤで走る電気自動車です。あのポルシェより速い加速で、さっそうと走ります。このほかにも、ものづくりの街としても発展してきた川崎市ならではの、工場

や研究所を巡るツアーがたくさん用意されています。実際に見たり触れたりできる体験はとっても魅力的です。

さらに、近年注目を集めているのが「工場鑑賞ツアー」。たくさんさんのツアー会社が、横浜や川崎でさまざまなテーマで工場鑑賞ツアーを企画しています。バスや船から眺める工場鑑賞は、特に夜、暗闇に浮かび上がる姿が幻想的。たとえば、リザーブドクルーズが主催している「工場の夜景を運河から眺めることのできる(工場夜景)ジャングルクルーズ」は、子ども2250円、大人4500円で参加できます。親子で参加して、ニッポン・ブランドが生まれるところを身近に感じてみませんか？

それゆけ! 撮影隊



モデルになってくれたのは、茅ヶ崎市に住む小学5年生のけんと君。姿勢の良さは幼稚園の頃から続けている空手のおかげ。将来の夢も「空手の先生!」なのだそう。最後に型を披露してくれたけんと君、カッコ良かったです!

表紙と店頭ポスターの撮影：本城直季
1978年生まれ。写真家。ミニチュアのように撮影する独自の手法で知られる。写真集「small planet」で第32回「木村伊兵衛写真賞」受賞。

写真：丸田あつし



お問い合わせ
川崎観光協会：TEL 044-544-8229
リザーブドクルーズ：TEL 045-290-8377

楽しく学べるって素晴らしいですね。自分の成長のために、おかねもきちんと使いましょ。